東京ジャーミイ金曜日のホタバ

# アッラーの道における施し

2011 年 4 月 15 日

**親愛なるムスリムの皆様**。アッラーに対する責任を認識しているムスリムの特質の一つが、施しです。施しは、アッラーのご満悦を得るため、人が自らの財産を費やすこと、必要としている人々に物質的・金銭的な援助を行なうことを意味します。この観点から、施しというと義務であるザカートや、自由意志に従って行なわれる各種のよい支援が思い起こされます。

私達皆が知っているように、人が所有している全てのものの唯一の、そして真の持ち主はアッラーです。だから人は信託として所持している財産を、真の持ち主である創造主が示す方向性で用いることは、しもべであることが要するものです。

クルアーンが最初の方のアーヤで、アッラーを誠実に信じる信者達の特質を挙げる際、信仰と礼拝に続いて施しについて言及していることは、この必要性によるものです。施しがなされる際には、見せかけ行為から遠ざかり、ただアッラーのご満悦のためになされること、施しを受ける人の誇りを傷つけないこと、なされた施しが人間の尊厳にふさわしい質と価値を持っていること、特に施しを受ける困窮した人々の訴えに最も即したものであることに細心の周囲が払われるべきです。

**親愛なるムスリムの皆様**。貧困者の支援、学校、図書館、モスク、道路、橋、泉、老人や身寄りのない人々のための介護の場の建設、そして当然、災害にあった人々のためになされるあらゆる援助、さらには動物や環境、自然を保護し発展させるための各種の出費も、アッラーの道における施しと見なされています。またハディースで述べられているように、人が家族の人々のためにかけた費用もまた、施しという概念で表現され、サダカのうち最も尊いものとされています。クルアーンは一般的によいことの報奨は１０倍であるとしていますが、アッラーの道での施しの報奨は７００倍もしくはそれ以上であるとしています。これも、アッラーの位階における施しの重要性を示すものです。

施しには心理的、社会的にも大きな効果があることは疑いの余地もありません。この効果の最たるものとして、施しを行なう人が見返りを求めず人の助けになったことで感じる内面的な安定があります。また一方で、施しのおかげで人はうぬぼれ、自尊心、けちであることといった私達の教えでよくないとされている状態からも救われます。

**親愛なるムスリムの皆様**。忘れてはいけないことは、社会として貧困層と富裕層の区別ではなく敬意と愛情が、敵意や憎しみではなく兄弟愛が、求められ、目標とされるべきものだということです。この望み、希望を実現させるための最大の手段の一つが、施しなのです。

今日のフトバを雌牛章第２６２節によって締めくくります。「**アッラー**の道のために、自分の財産を施し、その後かれらの施した相手に負担侮辱の念を起こさせず、また損わない者、これらの者に対する報奨は、主の御許にある。かれらには、恐れもなく憂いもないであろう。」